



JFA主催各種大会レポート

- 【1種】第53回全国高等専門学校体育大会 兼 第51回全国高等専門学校サッカー選手権大会 【女子】平成30年度 全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 女子
- 【2種】第42回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会 【フットサル】第14回全日本大学フットサル大会
- 【3種】平成30年度 全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 男子 【フットサル】JFA 第5回全日本U-18フットサル選手権大会
- 【3種】第33回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 【フットサル】JFA バーモントカップ 第28回全日本U-12フットサル選手権大会
- 【3種】平成30年度 全国中学校体育大会/第49回全国中学校サッカー大会

※大会結果および準決勝・3位決定戦・決勝戦の公式記録、参加選手名は34～49ページに掲載
(第51回全国高等専門学校サッカー選手権大会は次号に掲載予定)



第53回全国高等専門学校体育大会 兼 第51回全国高等専門学校サッカー選手権大会

チームワークを生かし、 鹿児島高専が26度目の優勝

地区予選を勝ち抜いた15校と、佐世保高専(開催校)を加えた16校が参加した今年の全国高等専門学校サッカー選手権大会。台風の影響で日程が短縮されたため、準決勝進出の4チームは休養日なしの連戦となったが、疲労を感じさせない激闘が繰り広げられた。

準決勝第1戦は前回大会王者の鹿児島高専(九州・沖縄1)が、接戦を制して勝ち上がってきた宇部高専(中国B)と対戦した。試合は、鹿児島高専が前半から得点を重ねて3-1で勝利した。近畿大学高専(関西1)と大分高専(九州・沖縄2)の一戦は、延長戦にもつれる熱戦の末、近畿大学高専が3-2と競り勝ち、決勝に駒を進めた。

決勝戦は、3年連続で同じカードとなった。組織的にボールを動かして1トップの牧瀬諒哉を生かす鹿児島高専に対し、4年生と5年生で編成された近畿大学高専は、堅守速攻を武器に2年ぶりの優勝を目指した。

主導権を握ったのは鹿児島高専。7分、牧瀬からの縦パスを受けた樫山駿祐がシュートを決めて先制する。11分にも牧瀬が鋭く右足を振って追加点を決めた。鹿児島高専の北園裕一監督が「早い時間でリードでき、落ち着いて試合を運べた。選手たちの素直さ、謙虚さが出ていた」と語ったように、暑さの中でもハードワークし続け、リードを広げていく。

近畿大学高専もハーフタイムに、「ブロックを築いてからのカウンターをもう一度続けよう(川合裕也監督)」と再確認。終盤は狙いとする速攻からチャンスをつくり、梶規規、大川晃平らが積極的にシュートを狙うが、最



【大会概要】
8月18日～21日に長崎県島原市で開催された。各地区から選出された15チームに、開催校を加えた16チームがトーナメント方式で優勝を争う。試合時間は80分、勝敗が決しないときは20分間の延長戦、PK方式により勝敗を決定する。

3年連続で同カードとなった決勝は、鹿児島高専が勝利し5年ぶりに連覇を飾った

後までをゴールを決めることはできなかった。

鹿児島高専は2連覇で26度目の栄冠に輝いた。決勝戦で1ゴール2アシストの活躍をしたキャプテンの南橋千裕は「前向きにボールを奪い、シュートカウンターに行く。練習でやってきたことを出せたのが勝因」と力を込めた。4日間の短期決戦となった今大会も、暑さに負けぬ熱戦で幕を閉じた。